

経営 トップセミナー オフコンユーザー様限定

『ユーザーが決める。IT投資の選択権!』

～IT投資リスクと情報システム部門のあるべき姿～

いずれやって来るITシステムの見直し。当セミナーでは
どうすれば“リスクのないIT投資”を成功させられるのかをお伝えします。

経営トップセミナー 3つのポイント

- 1 オフコン環境に潜む危険性
- 2 リスク回避のための“現状把握”
- 3 戦略的IT投資の実現

東京会場

IBM AS/400ユーザー様限定

主催 FutureOne株式会社 ダイレクトビジネス本部
ゼネラル・ビジネス・サービス株式会社

日時 2011年9月22日(木) 16:00～17:30

場所 フューチャーセミナールーム
東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー 最寄り駅:大崎

大阪会場

オフコンユーザー様限定

主催 FutureOne株式会社 ダイレクトビジネス本部

日時 2011年9月15日(木) 15:30～17:00

場所 フューチャーセミナールーム
大阪市中央区南船場2-1-3 上山ビル 最寄り駅:長堀橋

お問合せ ☑ 東京: contact-2011004@future-one.co.jp
はこちら ☑ 大阪: contact-2011003@future-one.co.jp

☎ 03-5719-6122
http://www.future-one.co.jp/seminar/

東京/大阪
30名
無料



執筆者
FutureOne株式会社
代表取締役社長
フューチャーアーキテクト株式会社
ストラテジー&事業開発室 執行役員
櫻田 浩 さくらだ ひろし

1987年 日本アイ・ビー・エム入社
2001年 フューチャーシステムコンサルティング
(現フューチャーアーキテクト)入社
2007年 同社流通サービス事業本部長
2011年 同社ストラテジー&事業開発室
執行役員(現職)
FutureOne 代表取締役社長(現職)

IBM時代から今日に至るまで、中堅・大手企業を中心にITコンサルだけでなく、実際のシステム導入まで関わり、多くの顧客を成功に導いてきた実績がある。経営陣のIT投資に対する「よく分からない」という声に応えるため、これまでのノウハウを活かした『既存システム解析サービス』という独自サービスの提供を開始した。

お問い合わせ & 申込方法

● セミナーに関するお問合せ

☎ 03-5719-6122

(セミナー事務局宛)

● Webサイトからの場合
http://www.future-one.co.jp/seminar/

検索は
コチラ

FutureOne株式会社
創業 / 1976年2月 社員数 / 169名
URL / http://www.future-one.co.jp/
Email / info@future-one.co.jp
事業内容 / ERP・基幹業務システムを中心としたグローバルソリューションブランド「FUTUREONE」シリーズの開発、販売。豊富な導入実績・ノウハウを基に、業務分析・コンサルティングからシステム設計・開発導入後のアフターフォローまで、密度の高いサービスを提供。

「自社のIT投資のコストは妥当なのか?」「本当に必要なのか?」「そもそも現在の維持・メンテナンス部隊の人数は妥当なのか?」「もっとと人件費を抑えたい」という悩みが、多くの経営者に共通して抱えている悩みがあります。それは「自社システムのコストが適切かどうか分からない」という悩みです。

「自社のIT投資のコストは妥当なのか?」「本当に必要なのか?」「そもそも現在の維持・メンテナンス部隊の人数は妥当なのか?」「もっとと人件費を抑えたい」という悩みが、多くの経営者に共通して抱えている悩みがあります。それは「自社システムのコストが適切かどうか分からない」という悩みです。

「自社のIT投資のコストは妥当なのか?」「本当に必要なのか?」「そもそも現在の維持・メンテナンス部隊の人数は妥当なのか?」「もっとと人件費を抑えたい」という悩みが、多くの経営者に共通して抱えている悩みがあります。それは「自社システムのコストが適切かどうか分からない」という悩みです。

「自社のIT投資のコストは妥当なのか?」「本当に必要なのか?」「そもそも現在の維持・メンテナンス部隊の人数は妥当なのか?」「もっとと人件費を抑えたい」という悩みが、多くの経営者に共通して抱えている悩みがあります。それは「自社システムのコストが適切かどうか分からない」という悩みです。



セミナー会場(東京)

「今やITは企業経営に欠かせない存在。だからこそ、IT投資に失敗は許されない。現場任せのIT投資は失敗する!」

『既存システム解析サービス』で戦略的なIT投資を実現

「中堅・中小企業にとって、戦略的なIT投資は重要課題である。経営者は、自社のIT投資が適切かどうか精査する必要があるかもしれない。特に1990年代にオフコンを導入し、現在もそのシステムの維持・メンテナンスに投資している企業は、IT投資の見直しを考えてみてはどうだろうか。」

「御社のIT投資は適切ですか?」

「これまで数多くの企業のIT戦略を支援してきましたが、多くの経営者が共通して抱えている悩みがあります。それは「自社システムのコストが適切かどうか分からない」という悩みです。

「自社のIT投資のコストは妥当なのか?」「本当に必要なのか?」「そもそも現在の維持・メンテナンス部隊の人数は妥当なのか?」「もっとと人件費を抑えたい」という悩みが、多くの経営者に共通して抱えている悩みがあります。それは「自社システムのコストが適切かどうか分からない」という悩みです。

「御社のIT投資は適切ですか?」

「これまで数多くの企業のIT戦略を支援してきましたが、多くの経営者が共通して抱えている悩みがあります。それは「自社システムのコストが適切かどうか分からない」という悩みです。

「自社のIT投資のコストは妥当なのか?」「本当に必要なのか?」「そもそも現在の維持・メンテナンス部隊の人数は妥当なのか?」「もっとと人件費を抑えたい」という悩みが、多くの経営者に共通して抱えている悩みがあります。それは「自社システムのコストが適切かどうか分からない」という悩みです。

中でも、当時最先端の技術を搭載し、世界中の企業で導入されたのが、シングルバレイクというコードネームで知られたIBM i シリーズ(旧AS/400)でした。その最大の特徴は、当時としては画期的な48ビットOSをインストール、RDBが標準装備されていた点。さらに使い勝手がよく、オフィスに設置でき、拡張性にも優れていました。結果、中型コンピュータの大ヒット商品となり、2000年頃には世界中で約50万台が導入されました。現在、稼働中のオフコンの多くはIBM i シリーズと言っても過言ではありません。

そんなIBM i シリーズでも、オープン化が叫ばれる現在では、次第に導入台数を減らしています。

オフコンの特徴であるクロードな環境は、「ほとんど情報漏洩の心配がない」というメリットがある反面、「一度導入したシステムを経営方針の変化に対応させることは困難」というデメリットがあります。そのため、既存のシステムを維持するために、無理やり運用で力